

株式会社クロスキャット

エンジニア全体のスキルの底上げを狙い 新入社員研修にOracle Universityを採用



ソフトウェアの受託開発、人材派遣をおこなう株式会社クロスキャット(以下、クロスキャット)は、3カ月間にわたって実施された2013年度の新入社員研修プログラムに、日本オラクルが提供するOracle Universityを取り込んだ。研修後には新入社員全員がオラクル認定資格試験を受験し、なかにはすでにORACLE MASTER Silverに挑戦し、無事に合格した者もいる。同社はなぜ新入社員研修にOracle Universityを採用したのだろうか。

現場優先の教育体制のために 技術レベルや意識に温度差が

クロスキャットは、2013年に創業40周年を迎える金融や公共の分野を得意とする、独立系システムインテグレーターである。近年はビジネス・インテリジェンス(BI)分野にも注力し、コンサルティングからBIツールの提供まで、システム構築全般をサポートしている。この分野では、オラクルのGold Partnerとしての豊富な実績も誇る。

Oracleデータベースとの関係は1980年代後半からと古い。2002年に同社が手がけた官公庁のクライアント・サーバー型システムは、当時、Oracleデータベースを活用した世界最大級といわれる規模のものだった。同社の取

締役 常務執行役員 前田 耕司氏は、「当社のデータベースは、Oracleデータベースがスタンダードです。それだけに、Oracleデータベースの高いスキルがなければ仕事になりません」と語る。

一方で課題もあった。現場での対応力を重視するあまりにスキル教育がOJTになりがちだったのだ。研修もプロジェクトなどの必要に応じてその都度受講するなど、体系的な知識の習得や資格取得という意識が薄かった。「結果として、技術者ごとにスキルレベルに差があるだけでなく、最新の知識や技術の習得に対する温度差が大きくなってしまいました」(前田氏)。発生したシステム障害の解決に、外部のパートナーの力を借りざるを得ない状況が発生したことも、同社の技術者教育の

あり方に対する危機感を高めた。

そこで注目したのが、日本オラクルが提供するOracle Universityの活用だった。「新入社員研修に取り入れようと考えたのは、研修期間中であれば体系的な知識と技術に必要な時間が割けるためです。また、会社全体のスキルの底上げにもつながると考えました」と前田氏。体系的な知識をもち、資格を取得した新入社員が配属されてくれば、現場の先輩エンジニアの刺激にもなる。結果として、在籍するエンジニア全体の意識も向上するはず。そこが同社の狙いだった。

3カ月の新入社員研修に Oracle Universityを組み込む

Oracle Universityのプログラムは、



株式会社クロスキャット
取締役
常務執行役員
前田 耕司氏



株式会社クロスキャット
管理統括部
人事部 部長
高尾 良平氏

3カ月間の新人研修に組み込まれるかたちで用意された。「文系学部出身もいる新入社員には、レベルが高すぎるのではないか」という危惧もありましたが、スキルの底上げは今後のビジネスには欠かせない要素であるという思いで、2012年11月に採用を決めました」と同社管理統括部 人事部 部長の高尾 良平氏は話す。日本オラクルとの打合せを経て、2013年2月には詳細な研修プログラムが完成した。

2013年度の対象者は12人で、プログラミング経験がまったくない者も多い。最初の1週間は社会人としての基礎を身につけるヒューマン研修があり、その後技術研修にシフトして基本技術を学び、5月上旬からはオラクルのカリキュラムがスタートした。

研修の仕上げとして用意されたのは、開発プロジェクトの疑似体験だ。「現場に配属されると、開発の上流から下流までトータルでかかわる機会はなかなかありません。そこで毎年研修の最後には、プロジェクト全体を疑似体験できるプログラムを用意しています。今回はそこにもOracle Universityのプログラムを取り入れ、要件定義から設計、開発までをおこなう内容にしました」（高尾氏）。研修終了後には、全員がオラクル認定資格試験を受験し、

ORACLE MASTER Bronzeに10人が合格。Java Bronzeも4人が取得している。

配属後は、新入社員だけでなく、OJTトレーナーや配属先の上司も対象にアンケートを実施した。「おおむね研修の有効性が確認できる回答でした」と高尾氏はその成果を語る。さらに、入社1年目でのORACLE MASTER Silver取得に向け、ORACLE MASTER Silver取得用の中間研修も10月下旬に実施された。

社会人になっても求められる 勉強し続ける癖を身につける

クロスキャットでは、新入社員だけでなく、既存の社員も含めた体系的な人材育成や技術習得にも注力している。現在は、各部門から選抜された48人の技術者が、新入社員向けプログラムと併せて導入した、自身のペースで受講できるOracleトレーニング・オンデマンドでスキルアップに取り組み、資格取得を目指している。前田氏は「目下の目標はORACLE MASTER Goldの資格取得者を10人以上にすること。そしてORACLE MASTER Platinumチャレンジャーを輩出することです」と意気込みを見せる。

その背景には、顧客のITリテラシー

の向上がある。「日進月歩のIT業界にあって、常にスキルアップを図らなければ、技術者として通用しなくなる」と前田氏。同社では中期経営計画の中核に人材育成を位置づけ、人事制度改革も含めた取組みを進めている。

前田氏は「ビジネスパーソンは勉強し続けることが求められます。とくに技術がすぐに陳腐化してしまうIT業界では、こうした傾向が顕著です。新入社員研修にしては厳しいプログラム内容になりましたが、それは単に技術だけの話ではなく、勉強し続ける習慣を身につけてもらいたいからなのです。そのための基盤として、今回のOracle Universityを活用した新入社員研修を、来年度以降もブラッシュアップしていきたい」と語る。

PROFILE

株式会社クロスキャット

「心技の融和」を経営理念に、ソフトウェアの受託開発と人材派遣を中心に展開する独立系システムインテグレーター。2013年には創業40周年を迎えた。金融や公共分野を得意とし、アプリケーション開発から、IT基盤の構築、運用までを手がける。ビッグデータの活用で経営をサポートするBIビジネスも早くから展開し、コンサルティングから、設計、構築、運用までをワンストップで提供している。

仕事をしながらでも毎日4時間勉強する習慣が身についた



株式会社クロスキャット
法人ビジネス事業部
BI部
福井 寛之 氏

文系学部の出身で、プログラミングの経験もほぼなかった私にとって新入社員研修はハードなものでしたが、同期との仲間意識やライバル意識もあって乗り越えられました。

技術的なスキルだけでなく、仕事をしながら勉強する習慣が身についたことにも感謝しています。オフショア開発への移行が進むなか、技術者として第一線に立ち続けるためには、技術力や知識で勝負するしかありません。今でも毎日4時間は勉強の時

間にあてています。

配属されて3カ月後にあらためて勉強するよりも一気に勉強したほうが効率的だと考え、会社での10月の研修を待たずに独力でORACLE MASTER Silverの試験に挑戦して、無事合格しました。ですがORACLE MASTER Silverは通過点。目指すのはあくまでもORACLE MASTER Gold、そしてORACLE MASTER Platinumです。簡単ではありませんがやりがいがあります。

日本オラクル株式会社

〒107-0051 東京都元赤坂1-3-13 赤坂センタービルディング12F
oracle.com/jp

オラクルユニバーシティ
お問い合わせ窓口

ORACLE
UNIVERSITY

TEL 0120-155-092

URL <http://www.oracle.com/jp/education/>